

都わすれ(変更あり)

松下幹生

過ぎし日の 面影たどり 京の地へ  
あなたの笑顔 忘れ得ず  
一人佇む 銀閣寺  
二人で食べた 蕪(かぶ)の蕎麦  
景色望めば 懐かしく  
胸に残るは 桜の下で  
愛を語った 一刻(ひととき)が

小雨降る 三千院の 門跡(もんぜき)を  
そぞろ歩きの 二人連れ  
相合傘も 絵になって  
みどり眼に染む 苔の庭  
今も微笑む 石仏  
あの日過ごした 二人の刻を  
取り戻したい 私です

あなたとの 思い詰まった 京の街  
一人悲しく 訪れて  
五月雨(さみだれ)の中 旅行けば  
いつしか雲が 薄れゆき  
雨も上がって 傘たたみ  
私の心 表すような  
一筋差した 希望の陽